

流山 九条ニュース

「九条の会・流山」事務局

阿部 7140-7605 石林 7154-7511

齋藤 7143-0374 三原 7152-6559

2011.4.1 NO.61



「九条の会・流山」HP：<http://www.nagareyama9.org/>

メール：info@nagareyama9.org

被災された皆様、そして身内や友人が被災された方々、ここからお見舞い申し上げます。

大地震・津波！まるで戦争

現実となった原発の危険

大地震と津波の災害は、被災地はもとより、日本中を恐怖に陥れました。未だに被害の規模や失われた方の数さえ不明です。経済大国日本は災害大国でもあることも明らかになりました。加えて原発の深刻な事故とそれへの東電および日本政府の対応のまずさには世界中が懸念し固唾を呑んでいます。核戦争の脅威だけでなく「平和利用」もそのあり方が改めて問われています。

今後、日本は全体として、また世界も、経済混乱を含めて大変な課題を背負うことになりました。

「いまこそ九条」です。平和的な日本の再建を目指して、ともに頑張りましょう。

危機に自衛隊、米軍は

この危機に軍はどう動いているのでしょうか。震災の報道が様々ある中で、情報が極めて少ないのはなぜでしょう。みんなで情報を集めて出し合い、検証をすることも必要ではないでしょうか。

<1> 前例なき態勢 (3/28 読売新聞)

北沢防衛相は27日の防衛省災害対策本部会議で「米軍の持てる力は同盟国として大いに受け入れ、国民の不安を払拭していかなければならない」と述べ、危機を乗り切るため、自衛隊と米軍の連携が不可欠であることを強調した。

自衛隊、米軍は「前例のない」(防衛省幹部)規

模の部隊を派遣している。自衛隊は27日午前9時現在で、陸海空3自衛隊の総定員の半分近い約10万6900人、航空機539機、艦船53隻を投入した。一方、今回の支援を「TOMODACHI(トモダチ)作戦」と銘打った米軍の態勢は陸、海、空、海兵隊の4軍で約1万6000人、航空機113機、原子力空母「ロナルド・レーガン」を含む艦船12隻だ。特に、海兵隊では、移設問題で揺れる普天間飛行場(沖縄)に所属するヘリ部隊などが物資輸送などを展開している。

米軍はこれらの部隊を統括するため、在日米軍司令部のある東京、横田基地に「統合支援部隊(JSF)」を新設した。米軍の指揮官は、地震発生直後は、フィールド在日米軍司令官(空軍中将)だったが、JSF発足に伴い、格上のウォルシュ米海軍太平洋艦隊司令官(海軍大将)になった。

自衛隊幹部は「今回の地震、原発に対し、自衛隊と米軍は、日本侵略の有事に準じる体制で臨んでいる。共同訓練などで積み重ねた米軍との協力の真価が問われている」と指摘する。

<2> 米軍トモダチ作戦 中旬まで 原発対応は継続(東京新聞4/1)

三月十一日の震災当日、ルース駐日米大使は日本政府に全面支援の意向を表明。米軍は豊富な艦艇や航空機を活用し、主に行方不明者や孤立住民の捜索救助、支援物資の輸送を担った。

自衛隊が十万人態勢で対処する中、米軍も海外からの派遣を含めてピーク時で一万八千人以上が関与。米空軍が輸送した飲料水を自衛隊車両で避難所に届けたり、米海軍の揚陸艦が北海道の自衛隊部隊を被災地に運ぶなど連携も進んだ。

地震と津波で寸断された輸送路は、高速道路がほぼ開通するなど改善。裏面につづく

自衛隊による生活支援に加え、電気やガス、水道も復旧へ動きだしてきた。関係筋によると、この救援活動「トモダチ作戦」は今後空母ロナルド・レーガンを含む艦艇や空輸部隊を順次撤収……。

一方、原発事故では日米の専門家が情報を共有し、対処方針を緊密に協議している。世界で最初に核兵器を開発した米軍は「多くの事故も経験してきた」(防衛省幹部)とされ、日本側にも貴重な助言者。高濃度の放射性物質を含む「たまり水」など異常事態が続いており、米側の支援は強化の方向になっている。

< 3 > 核被害専門 140 人来日へ 米海軍(朝日新聞 4/1)

核被害に詳しい米海兵隊の専門部隊「CBRNE (=シーバーン、化学・生物・放射能・核・爆発物)」（450人）のうち140人が近く来日し、緊急事態に備えることになった。当面、関東地方の米軍基地で待機し、自衛隊と情報交換する。

……シーバーンは米の同時多発テロ後、本格的に編成された特殊部隊。除染、放射線検知、医療を行う。福島第一原発の放射線被害が拡大した場合、福島県の郡山駐屯地などに展開している陸上自衛隊の中央特殊武器防護隊、対特殊武器衛生隊との活動を想定している。

< 4 > 危険任務 軍用ロボ出番

(朝日新聞 4/1 抜粋)

複数のハイテク企業が(福島原発事故)支援に名乗りを上げている。……「日本政府が世界にロボット、無人機を求めています」米にある国際無人機協会のホームページに案内が載った。遠隔操作で長いアームを備えカメラシヨベル、カッターなどを備えたロボ、爆発物処理用で放射性物質の測定や暗視カメラを備えたロボなどの遠隔操作ロボットの提供の申し出があるという。日本製も1台派遣されているという。原発に電力の大部分を依存するフランスは最大手のフランス原子力アレバのCEO(最高経営責任者)のロベルジョン氏を派遣、同社の技術者が高い放射線の下での作業に協力するという。そして防護服1万着や放射線測定車2台などを提供した。

< 5 > 編集者の疑問

3月31日国会は政府提出の予算案関連の審議の中で米軍への「思いやり予算」特別協定を承認しました。年間1858億円、5年間で1兆円という額にのぼります。北澤防衛大臣の答弁などで政府は「米軍は身銭を切って(日本の災害救援を)支援している」と米軍への謝礼であるかのように説明。審議も満足に行えない状態の中で決定しました。米軍の努力への見返りとの言い分ですが、米国防省が発表している、支援のための支出総額は2496万ドル(20億7200万円)。今思いやるべきなのはどちら？

< 1 > ~ < 4 > の記事を読んで、これだけの軍備に使われた費用が災害救助に初めから用意されていたら、どれほど高度な救援が可能であったことかと思わざるをえません。

それにしてもロボット大国のはずの日本になぜこの事態に対処するロボットがないのか、防護服まで他国に頼らなければならないのか、驚きです。

たとえ軍用であれ、それは兵士の生命を軽視できないという西洋の人権思想の反映であることを改めて感じざるを得ません。



ぜひご意見をお寄せ下さい

流山憲法集会

池田香代子さん講演会

5月14日(土) 13:30開場 14:00開演

南流山センター ホール

定例駅宣伝

4月は 9日(土) 15:30 ~ 16:30

流山おおたかの森駅

自衛隊や災害救助の部隊を本気で考えて

もらう機会にしたいですね。3月は7名でした。

ぜひ多数の皆さんのご参加を！

[カンパはこちらの郵便振替口座へ](#)

00130 - 5 - 464735 口座名 九条の会流山